

総合科学研究所だより

Research Institute of Human Ecology, Literature and Education

巻頭言

総合科学研究所長 渋谷 寿
SHIBUYA Hisashi

平成26年度より、総合科学研究所の所長を務めさせていただくことになりました。組織構成が少し変わりましたが、歴代の所長の先生方の成果を範としながら、研究所としての新たな発展を目指したいと考えております。次年度は学園創立100周年という大きな節目の年を迎え、文学部が汐路学舎群に移転する等、新たな学園の発展の次期に入ることになると予感されます。ここで、改めて越原春子先生の建学の精神、女子教育の理念を原点に置き、総合科学研究所の使命を考えてみたいと思います。

振り返れば、昭和34年に生活科学研究所が開設され、昭和47年に児童研究所（後に教育研究所に改称）が開設されました。その2つの研究所が昭和54年に併合され、現在の総合科学研究所が誕生し、30年以上が経過しました。自然科学系と人文科学系の研究分野が合併され、正に、本学における総合科学としての研究の中心となる機関となりました。同時に「総合科学研究」が創刊され、研究所の活動報告と研究論文を掲載する重要な機関誌になっており、今年で第8号がお手元に届いていることと思います。

本研究所の機関研究は、自然科学系と人文科学系という領域の枠

を超えた、教育と研究の相補的な活動を目指しています。「大学における効果的な授業法の研究」は今年度で6課題目という積み重ねた先端的継続研究になっており、本学における様々な授業に成果が還元されています。「創立者越原春子女子および女子教育に関する研究」も、春子先生に関する研究を深めると共に、参加される先生方の専門性を生かした、本学の女子教育に還元される成果が今後も期待されています。附属幼稚園における「幼児の才能開発に関する研究」は、今年度から「豊かな言葉の獲得」という研究主題とし、子ども達のコミュニケーション能力を高める研究成果が期待されます。毎年公募しておりますプロジェクト研究は、研究領域の異なる研究者が共同で行う学際的な研究を目指しており、総合科学研究所設立時の理念に基づいた企画となっております。成果が期待されています。

また、今年度も地域貢献事業として、地域の子ども達を対象とした瑞穂児童館との共催事業、地域の高齢者の方々を対象とした瑞穂保健所との共催事業の計画も着々と進んでおり、これらの活動は、年々地域の中に浸透するとともに好評を得ております。

このように、総合科学研究所には、時代と共に変化して行く様々な社会状況に適応しながらも、文字通りの総合科学研究の本質的なあり方を先進的に追求して行く使命が有ることを再確認いたします。皆様の御理解をいただきまして、今後も様々な活動に対してご協力をお願い申し上げます。

平成25年度
「開かれた地域貢献事業」
報告

名古屋市瑞穂児童館 平成25年度・開かれた地域貢献事業を終えて

名古屋市瑞穂児童館 稲澤真由美

交流事業がスタートして平成25年度で4年目。児童育成や子育て支援にかかわる地域貢献としてたくさんの講座・イベントを多くの地域のみなさんに参加していただきました。すっかり馴染みとなった講座もあり、児童館をいつも利用してくれる子どもたちにとっては毎年楽しい講座・イベントになっております。

例えば、対象が子どもの向けの講座では、おもしろそう！やってみよう！という好奇心からたくさんの子が参加してくれました。特に、クッキングができる講座はとても人気がありました。年々、事業を重ねるとともに、広範囲の地域のみなさんに交流事業に親しんでもらえた広がりを感じます。

また、対象が親子向けの講座は、子育てのヒントになれば……、もっと育児を楽しみたい、など保護者側の気持ちに添った、日頃の子育てでの困りごとや悩みを和らげるためのヒントや、日常生活に豊かな気持ちを少しプラスできるような、親子の時間を提供することができたのではないかと思います。小さな子どもを日々、育児している保護者にとっては、同じ環境の親子との交流が難しいこともあります。講座の参加をきっかけに、仲間づくりの機会をつくることもできたのではないかと感じます。

体験することで喜んでもらったクリスマスイベント。「また来年もきたいです！」というお声をたくさんいただきました。子どもたちにとって、大学生とのかかわりも新鮮で心地よかったです。

子どもは優しく、素敵なお姉さんに好感と憧れをもつようです。イベントの中で一緒に過ごした時間を子どもたちが笑顔で楽しんでいる様子が印象的でした。

最後に、この交流事業を実践していくにあたって実感することは、様々な事業を通して、それぞれの世代のみなさんの興味や関心を広げられる、間接的な支援につながっていくことができるということや、普段はしないことをチャレンジしてみようかな……というように、少しワクワクすること、偶然の気づきなど、子どもも大人も刺激をもらえる地域貢献事業に育っているのではないかと感じます。

今後も名古屋女子大学と瑞穂児童館の交流事業を通して、子育て世帯の家族はもちろん、すべての地域の人々に貢献できることを願います。



カラフルおとだまづくり



クリスマスイベント

平成25年度
「開かれた地域貢献事業」
報告

名古屋市瑞穂保健所 「若がえり教室 きらきらコース」 終えて

名古屋市瑞穂保健所 粉川美佳

瑞穂保健所では、認知症やうつを予防するための教室を「若がえり教室」として実施しています。名古屋女子大学と教室を開催させていただくのも今回で5回目となりました。昨年度は平成25年9月～平成26年2月の6日間に、60代～80代の男性3名、女性29名の方が参加されました。

プログラムは「染色ハンカチ制作体験」「薬膳料理に挑戦」「懐かしい童謡や唱歌を歌ってみよう」「誰でもいつでもできる簡単料理」「ヒノキを使った木工作品」など、誰でも気軽に楽しめ、かつ自分だけのオリジナルができるものもあって好評でした。参加者からは「学生時代を思い出して懐かしかった。」「大学に通っている様で楽しかった。」「学生と交流できて嬉しかった。」「等」の声が聞かれ、「また参加したい。」「毎年楽しみにしている。」という声も増えている

様に感じています。また、各講座と一緒に参加して下さった学生さんからは「高齢者の方との交流は貴重な経験でした。」「発表するのは緊張しました。」という感想が聞かれ、学生さんにとっても良い機会となったようです。

認知症の予防には、アクティブなプログラムを互いに交流をしながら楽しんだり、新しいことにチャレンジしてワクワクする気持ちを味わうことも効果があるといわれています。今回の教室でも新しい挑戦や交流で刺激を受け喜びや楽しみを見出し、教室終了後も仲良くなった方と交流をしている方や新しい事に挑戦されている方も多くみられています。今後も大学と共催し、ますますこの事業を発展させて、高齢者の方が毎日をいきいきと暮らし、最後まで自分らしい生活を送っていただきたいと考えています。



ヒノキを使った木工作品



染色ハンカチ制作体験



薬膳料理に挑戦

機関研究

「幼児の才能開発に関する研究」

～豊かな言葉の獲得について～

幼児保育研究グループ

今年度は、研究主題を『豊かな言葉の獲得について』とし、子どもたちのコミュニケーション能力を高めるための実践研究をスタートしました。幼稚園は、友だちや教師との関わりの中で様々な言葉を獲得し、人としての豊かな心を育み学ぶ場です。幼稚園教育要領では「(1)自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。(2)人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。(3)日常生活に必要な言葉が分かるようになると共に、絵本や物語に親しみ、先生や友達と心を通わせる」とあります。

3歳児は、様々な場面での言葉の意味や話し方を友だちや教師とのかかわりから発見します。4歳児は、語彙数は増えても、相手の思いを理解したり、自分の経験や思いを表現したりすることに

援助が必要です。5歳児では、相手の考えを受け入れ話し合いをしながら共同で活動する環境作りが重要になってきます。

これらのことを土台に、コミュニケーションとしての豊かな言葉について、教師間の共通理解を図り、子どもたちの生きるための力を育みたいと考えています。

(文責：森岡とき子)



絵本に見入る子どもたち

機関研究

「大学における効果的な授業法の研究6」

～「学士力」育成のための教育方法の検討～

遠山佳治代・大嶽さと子・神崎奈奈・嶋口裕基・白井靖敏・原田妙子・羽澄直子・幸 順子・大島光代・富士栄登美子

本研究は平成24年度から3年間かけて進められるものであり、平成13年度から研究所機関研究として継続されている「大学における効果的な授業法の研究」（1 情報教育、2 語学教育、3 教養教育、4 初年次教育、5 評価方法）から続く研究に位置づけられています。

昨年度は、谷川裕穂代表編者『学士力を支える学習支援の方法論』（ナカニシヤ出版、2012年）の輪読に取り組みました。本研究の課題である、本学における「学士力」育成に関わる教育方法の検討のためです。要約すると、『学士力を支える学習支援の方法論』

は「理論編」と「実践編」の二部構成となっています。「理論編」では「学習支援」をめぐる用語や「学士力」の解釈、教育・学習支援方法のあり方について論じられており、「学士力」育成のための基礎理解が促されました。「実践編」には高等教育における教育・学習支援の実践例が数多く紹介されています。本学の状況と照らしながら、「実践編」で紹介された実践例について議論がなされました。

今年度は本研究のまとめに向け、本学の事例から「学士力」の育成を具体的に検討していく予定です。(文責：嶋口裕基)

機関研究

「創立者越原春子および女子教育に関する研究」

吉田 文代・遠山佳治・竹尾利夫・嶋口裕基・児玉珠美・藤巻裕昌・吉川直志

本機関研究は2年目となりました。本年度から4人の先生方を新しく研究メンバーとしてお迎えし、総勢7名のメンバーでスタートすることができました。

本年度の研究テーマは、昨年に引き続き共同研究では対象とする時代を「大正から戦前期の女子教育の諸相」とし、春子先生に関する事項もしくは『會誌』を基礎として、研究メンバーがそれぞれの専門分野で関連事象について検証することにしました。また、『會誌』の理解をより一層深めるために、春子先生や名古屋高等女学校について、当時を知る本学園の卒業生等の方や教職員に対する聞き

取り調査を行い、本機関研究の一層の進展のためにメンバー全体の共同研究として推進していくこととしました。

今年度の研究計画としましては、2か月に一度、研究会議を実施し、輪番で研究メンバーが報告することとなります。また、25年度に始まった今期の機関研究ですので、当初は26年度に報告書を提出する予定でありましたが、研究メンバーに大幅な入れ替わりが生じたこともあり、総合科学研究所運営委員会のご承認を頂き、研究期間を平成27年度末までとしました。そのため報告書は平成27年度に提出する予定です。（文責：吉田 文）

プロジェクト研究

「小学校英語活動における他教科と共有可能な汎用的教授法についての研究」

ダグラス・ジャレル代・羽澄直子・服部幹雄

本研究では小学校教員が他教科で培った授業力・教育力を外国語活動に活かすとともに、他教科の内容を外国語活動に結びつけるような教授法の検証をおこなっています。文部科学省が出版している外国語活動教材 *Hi, friends! 1* と *Hi, friends! 2* には他国の文化が多々紹介されており、英語学習と社会科・国際理解教育を結びつける工夫が可能です。たとえば学校生活の紹介では、日本同様韓国や中国では子どもが教室を掃除しますがオーストラリアでは子どもはしないことが示され、「社会科」のなかで世界の暮らしを学ぶのに役立つでしょう。文化の違いについて（英語で）話し合えるような活動に発展させることもできます。

市販のEFLやESL教材の多くは一般向けで、小学校のカリキュラムを考慮して創られたものではありませんが、「算数」や「図画工作」といった科目との連携は十分可能です。たとえば英語の数字をただ機械的に1から数えるのではなく、足し算などの計算に英語表現を取り入れれば、英語は得意でなくても算数は得意という子どもに自信をつけさせることができます。また図画工作の場合は指示を英語ですれば、英語を目標達成のための手段として使うことになります。子どもたちは「英語だから分からない」という反応ではなく、工作という目的のために一所懸命に聞こうとする姿勢が現れます。（文責：ダグラス・ジャレル）

プロジェクト研究

「わらべうたを用いた幼児期の体系的な音楽教育の研究」

稲木真司代・伊藤充子・吉田文

幼小連携の必要性が高まる中、義務教育における音楽教育の分野に注目してみると、子どもたちが音楽に対して最初に関心を示したり、音楽的能力を伸ばす機会が与えられるのは、やはり小学校に入学する以前の幼児期であることがわかります。現在では多くの科学的な研究によって、音感や言語能力の習得のためには幼児期にそれらの能力を育むことがどれほど重要であるか明らかにされています。しかし「幼稚園教育要領」の中で、音楽については「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。」としか記述されておらず、具体的に幼児期の子どもた

ちが発達段階に応じて、どのような音楽的能力をどれ程まで培うことができるのかは明確にされていません。現在、本研究プロジェクトでは、年長クラスの園児達がわらべうたを用いた遊びの中で、音感や歌唱能力、リズム感、音楽的記憶、内的聴感（音や声を出さずに頭の中で音楽を聞く能力）などの能力がどれほどまで養われるのかを探るための準備を行っています。本年度は初年度なので、まずは研究に必要なわらべうたの収集・選定、またそれをもとにした教材作成や実践方法の確立などを行っていく予定です。

（文責：稲木真司）

平成26年度地域貢献事業計画

平成21年度から始まった名古屋市瑞穂児童館及び瑞穂保健所と本研究所とで展開しているコラボレーション事業「開かれた地域貢献事業」は、毎年好評をいただいております。今年度も学内公募で企画を先生方にお願ひし、多くの先生に応募していただき、充実した企画が採択されました。

名古屋市瑞穂児童館との交流事業は、平成26年8月から27年3月までに、8つの講座を開催し、12月の児童館クリスマスイベントとして6つの楽しい企画を行います。

瑞穂保健所との交流事業はリピーターも多く、平成26年10月から27年2月にかけて、65歳以上を対象とした「若返り教室キラキラコース（平成26年度認知症・うつ予防教室）」を支援する形で、5つの企画を行います。

これらは、文学部児童教育学科、短期大学部保育学科・生活学科の教員と学生、名古屋女子大学同窓会「春光会」および総合科学研究所教職員が協力して実施いたします。今年度も、より充実した地域貢献を推進・発展させてまいります。（文責：原田妙子）

講演会のお知らせ

演題 学生募集に繋がるFDのあり方

日時 平成26年9月18日(木) 10:00~12:00

場所 学校法人越原学園 越原記念館ホール

講師 山本 繁 氏 (NPO法人NEWVERY代表)



今年度の講演会では、本学にとっても大きな課題である学生募集をテーマに取り上げました。「NPO法人NEWVERY」代表の山本繁氏にお話を伺います。FDが学生募集に繋がるという考え方を講演していただくことにより、本学の各学部、専攻の理念と学生との適合性などを見直すことが可能になり、ひいては今後の学生募集につながる授業のあり方や、それらと連動するオープンキャンパス、ホームページの内容、高校との関係などをより良くするヒントが得られるのではないかと考えております。

略歴

1978年東京都生まれ。2002年慶應義塾大学卒業。若者たちが未来に希望を持てる社会作りを目的に、高等教育改革とクリエイター支援に取り組む非営利組織NEWVERYを設立。主なプロジェクトに高校生の進路発見プログラム「WEEKDAY CAMPUS VISIT」、本気で大学生活を充実させたい学生が集う学生寮「チェルシーハウス」、大学教職員のプロフェッショナルリテリ向上を支援する「大学教職員研修センター」、大学・専門学校の中退抑制を支援する「日本中退予防研究所」、地方出身の若手漫画家を支援する「トキワ荘プロジェクト」、「京都版トキワ荘事業」がある。文部科学省の諮問機関である中央教育審議会での報告を契機に2012年7月から翌年3月まで文部科学省・高等教育政策室の専門調査員を務める。2012年9月からは中央教育審議会「高大接続特別会」臨時委員。

瑞穂保健所共催講座 開催場所 ● 名古屋女子大学汐路学舎

平成26年度認知症・うつ予防教室「若がえり教室きらきらコース」

- 第1回 10月 3日(金) 「医師による講話と相談」
- 第2回 11月 6日(木) 「リズムに合わせて!!」
- 第3回 12月 8日(月) 「染色ハンカチ制作体験」
- 第4回 12月25日(木) 「羊毛フェルトでカラフルコースターを作ろう」
- 第5回 1月30日(金) 「懐かしい童謡や唱歌を歌いましょう」
- 第6回 2月 9日(月) 「香りの良いヒノキを使って (木工品製作)」



「懐かしい童謡や唱歌を歌いましょう」(※昨年度の様子)

瑞穂児童館共催講座 開催場所 ● 瑞穂児童館、第5回、第7回は名古屋女子大学汐路学舎開催

- 第1回 8月18日(月) 「うごく木のおもちゃをつくらう」【終了】
- 第2回 9月 9日(火) 「親のメンタルヘルスについて考える
—育児期のイライラと付き合いには—」
- 第3回 10月 5日(日) 「乳幼児対象食育相談」
- 第4回 10月25日(土) 「マザリーズ教室～赤ちゃんへの柔らかな語りかけを楽しく学ぶ」
- 第5回 11月22日(土) 「パソコンでクリスマスカードを作ろう!」
- 第6回 1月29日(木) 「子育て教室—保護者の交流と幼児のあそびについて—」
- 第7回 2月28日(土) 「ひなまつりのお菓子作り (おこしもの作り)」
- 第8回 3月 7日(土) 「木のおもちゃを作って科学体験」

クリスマスイベント 開催場所 ● 瑞穂児童館

- 12月13日(土) クリスマスのオーナメントクッキー作り
- 12月14日(日) 「みんなでクリスマスを楽しみましょう」
「クリスマスのおはなし」
「クリスマスのペーパークラフトをつくらう!」
「ぐりとぐらのクリスマス会へようこそ」
～絵本『ぐりとぐらのおきゃくさま』より～

今年度運営委員

委員長

原田 妙子
HARADA Taeko
(短期大学部)伊藤 充子
ITO Mitsuko
(文学部)間宮 貴代子
MAMIYA Kiyoko
(家政学部)羽澄 直子
HAZUMI Naoko
(文学部)森屋 裕治
MORIYA Yuji
(短期大学部)

研究所メンバー

所長

渋谷 寿
SHIBUYA Hisashi

顧問

河村 瑞江
KAWAMURA Mizue

主任

吉川 直志
YOSHIKAWA Tadashi

講師

越原 もゆる
KOSHIHARA Moyuru

職員

松本 由佳
MATSUMOTO Yuka

編集後記

ここに総合科学研究所だより第19号をお届けいたします。ご執筆いただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。本号では、昨年度の地域貢献事業の報告と、本年度に進行中の様々な研究活動についてお伝えしました。研究所の多くのアクティブな活動から、さらなる期待がふくらみます。

機関研究、プロジェクト研究は成果を生み出し、地域貢献事業では、多くの先生方の参加により、さらに有意義な活動となってきています。総合科学研究所では、これまでのしっかりとした基盤を基に、未来を見据えた堅実な研究活動を行ってまいります。今後も名古屋女子大学の総合科学研究所の役割・意義をご理解頂き、ご協力頂けますようお願いいたします。

(文責: 吉川直志)